

ひまわり



令和3年11月8日(月)

ペットにも命がある



「巣ごもり需要」という言葉が聞かれるようになりました。これは、コロナ禍で在宅時間が増え、その時間を快適に過ごすための需要のことをいいます。例えば、ネット通販などは、その最たるものです。

そんな中、ペット需要も伸びています。ペットフード協会の発表によると、2020年に新しく飼われたペットの数は、コロナ前の19年と比べて、イヌは約58000頭、ネコは約67000頭増加しているとのことです。

この数字から、コロナ禍でペットに心の安らぎを求めた人が、いかに多かったかが推測できます。しかし、飼ってみたものの、数ヶ月や短い場合は1ヶ月も経たないうちにペットを手放す飼い主が増えているそうです。

その理由は、「鳴き声がうるさい」、「こんなに臭いがするとは思わなかつた」、「いろいろなところで排泄をする」、「柱や家具をかじられた」などです。

これらのことは、しつけで改善することもあれば、どうしようもないこともあります。それを事前に理解しないまま、ペットショップで子犬や子猫の可愛さに一目惚れして、勢いで購入した飼い主もいるでしょう。また、店員さんの「この種類はおとなしいですよ」、「初めてでもお世話は簡単です」などというセールストークを信じて購入した人もいるでしょう。

先日、獣医さんから深刻な話を聞きました。最近、けがをしたイヌやネコが、保護団体により動物病院に運びこまれることが多くなっているそうです。人間の思いどおりにならないことを理由に、虐待を加えられたペットもいるそうです。あるいは段ボール箱などに入れられて、捨てられていた動物もいたとのこと。このような話を聞くと、人間の身勝手さに憤りを覚えます。

どのような動物にも命があります。私は、ペットも大切な家族の一員だと思っています。ですから、飼い主になるということは、その命に責任を持たなければなりません。その覚悟がなければ、ペットの飼い主になってはいけないです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。
【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>